

# ななかまど

札幌市立中島中学校  
学校通信 第3号 令和8年  
(2026年) 8月26日

## 夢を語るということ

教頭 半澤 亮

今から十数年前のことです。教育相談の時間に、何気なく「〇〇君、あなたの夢は何ですか？」と尋ねたことがありました。するとその生徒は、一瞬表情を曇らせ、「絶対に笑わないでくださいね」と念を押してから、真っ赤な顔でこう言いました。

「僕の夢は、宇宙飛行士になることです！」

私は笑うどころか、その大きな夢をまっすぐ受け止める準備ができていなかった自分に気づき、少し恥ずかしくなりました。その日から、彼が夢に向かって進む姿を全力で応援しようと決めました。

そんな彼は今、大学で研究を続けながら月探査のロボット開発に携わり、実際に月へロボットを送っています。そして「宇宙飛行士になる」という夢も、今も続いています。

数年前、彼の結婚式に招いてもらった際、照れくさそうにこう話してくれました。「先生が夢を真剣に受け止めてくれたことが嬉しかった。あの時、先生に言えてよかったです。」

その言葉を聞き、夢は自分一人で抱えるものではなく、誰かに語り、誰かに受け止めてもらうことで、前へ進む力になることがあるのだと改めて感じました。そして、教師をやっていてよかったと心から実感しました。

皆さんには、「夢」や「なりたい自分」がありますか。

夢をもっている人は、その気持ちをどうか大切にしてください。つらい時や苦しい時でも、夢を思い描くことが、あと一歩踏み出す力をくれることがあります。

まだ夢が見つからない人も、焦る必要はありません。自分が笑顔になれた瞬間や、時間を忘れるほど夢中になれた経験を思い返してみてください。好きなこと、得意なこと、誰かの役に立て嬉しかったこと。その中に、あなたらしい夢につながる小さなヒントがきっと隠れています。夢は、最初から大きく、はっきりしていなくてもいいのです。さまざまな経験や出会いを重ねる中で、少しずつ形になっていくものでもあります。

私にも夢があります。それは、今、目の前にいる皆さんが将来さまざまな場所で活躍し、いつの日か、その姿を次の世代の教え子たちに誇らしく語ることです。「先生の教え子には、こんなに素敵な人がいるんだよ」と。

そして、いつか皆さんのことを胸を張って自慢できるように、私も皆さんにとって「自慢の先生」であり続けたいと思います。そのために、これからも学ぶことをやめず、挑戦を続けていきます。

この二学期が、皆さん一人一人にとって、自分の可能性を信じ、大切な「夢」や「なりたい自分」と向き合う大切な時間となりますように。

(2学期の始まりにあたって)